



議会報告

～品川区議会公明党～

【品川区議会公明党会派報告】

●発行：品川区議会公明党 幹事長：たけうち忍

●〒140-8715 品川区広町2-1-36 TEL 03 (5742) 6817 FAX 03 (3774) 3366 URL <http://www.shinagawa-gikaikomei.org>

品川区の「今」をお伝えします!

2016年度

no. 2



安心して住み続けられる街・品川へ!

第2回定例会、品川区議会公明党の一般質問の一部を紹介します。



……熊本地震にみる震災への備え……

Q1 子どもの心のケア!

被災した子どもの心のケアが重要である。相談窓口の設置と避難所に遊び場の確保を要望する。



A1 健康相談窓口を設置する他、巡回相談チーム(精神科医等)の人材を確保する。遊び場は、避難所連絡会議で検討するよう提案する。

Q2 女性の視点!

女性の視点での災害対応を学ぶため、女性目線の「しながわ防災学校」の開催を求める。

A2 女性目線の「しながわ防災学校」研修コースを、現在検討している。



Q3 障がい者の避難を支援!

障がい者避難計画の現状を聞く。また、全避難所で同じ対応ができるようパンフレット作成などの取り組みを求める。

A3 防災区民組織に防災コンサルタントを派遣し、支援者の確保、避難個別計画の作成など、具体化に向けた準備を進めている。

各避難所の対応は、避難所連絡会議の中で障がい者への配慮の啓発を行っていく。



……誰もが安心できる子育て家庭支援……

Q1 病児保育の充実!

病児保育の定員拡大には課題あり。仕事を休めない保護者のため、訪問型病児保育の助成制度を創設すべき。

A1 病児保育は協力できる医療機関が限られ、利用者が地域的に偏在していること、キャンセルが多いことなどの問題が顕在化している。こうした状況を踏まえ、どのように仕組みを構築できるか課題を整理する。



Q2 ひとり親の就労支援!

母子家庭の47.4%がパート・アルバイトで平均収入が125万円。母子家庭および父子家庭高等職業訓練促進給付金事業の利用者を拡大せよ。

A2 給付期間を3年に延長したことで、対象資格が調理師、看護師などに広がり、制度利用者が増加すると期待している。また、受給者の約2割が未修了となっていることから、修学途中でヒアリングを行うなど資格取得を支援する。

Q3 保育園開設の推進!

既に保育園が設置されている近隣への開設や過去の保育園開設の実績など、認可保育園開設について柔軟な対応を求める。

A3 保育園の近接でも必要な場所については設置を誘致し、認可保育園の開設実績についても昨年度より必要年数を下げるなど、取り組みを進めている。

精力的に自治体の先進事例を視察

区議会公明党では、よりよい品川区政の実現のため他自治体の先進的な事例を積極的に視察し、議会質問などに活かしています。

●5月22日 渋谷区 ● 子育て支援施設「かぞくのアトリエ」と「代官山ティーンズ・クリエイティブ」

アートに着目した子どもの居場所づくり事業。子どもたちの創造力、活動力を高めるため第一線のクリエイターによる教室やクリエイターとの交流などが行われています。



●5月24日 北九州市 ● 地方創生・介護ロボット

地方創生として、人口減少への対応のため女性と若者の定着を目指し、雇用環境と出産・子育て環境の整備を展開。

介護ロボットでは、介護のプロが担う仕事と介護ロボットに任せる仕事を明確化し、介護現場の人材不足解消と処遇改善を目指す。



●6月2日 荒川区 ● がん教育

小中学校でがん予防出前授業を実施。今後、がん検診受診率の向上に結びつくか注目される。

障がい者の模擬投票を実施

品川区は区内の障がい者団体と協力して、「障害のある方のための出前講座・模擬選挙」を5月15日、荏原文化センターで初開催し、軽度の知的障がいのある45人が本番さながらの投票を体験しました。



参加者は初めに、区選挙管理委員会の職員から、投票用紙に文字を記入できない選挙人のための制度「代理投票」などの説明を受け、区の自立支援事業「日曜サークル」の会長選挙を想定して投票。

会場には、実際の選挙で使われるのと同じ投票用紙の交付機や記載台などが設置され、投票管理者も立ち会いました。

参加者は、「とてもいい練習になった」と話していました。模擬選挙の実施については、障がい者団体から要望を受けた区議会公明党が、昨年9月の区議会定例会で「障がい者が選挙を身近に感じられるための施策を」と訴えていました。

